

840号

〒144-0052 東京都大田区蒲田 5-10-2
 日港福会館 5階
 Tel 03(3733)5621 Fax 03(3733)5622
 メール rouren@kensu.jp
 ホームページ http://www.kensu.jp/
 全国検数労働組合連合
 書記局



6月16日(火) 第3回検数労連 26 夏季一時金交渉 15:00~15:30 ~ 26 夏季一時金交渉 山場へ ~ 組合員の声を両協会へ 有額回答指定日前最後の交渉を実施

【第3回交渉】

6月16日(火) 第3回 検数労連 26 夏季一時金交渉で、組合は両協会にこれまでの収支状況や今後見通し、一時金回答構築に向けた考え方の披露を求め、交渉を行いました。

【全日検】

これまでの取り扱い貨物の動向について、2025年度はコンテナ本船や自動車関係の取り扱いが増えたが、鉄鋼や検査関係の業務の減少によって減収となった。

また、中東情勢悪化によるホルムズ海峡閉鎖の影響やこれまで行っている検査業務関係の今後の動向など、不透明な部分が多くあり2026年度についても不透明な状況は続く予想している。現に2026年4月・5月の収支状況も堅調とは言えない状況である。

このような状況ではあるが、全日検としてあらゆる角度から検討を重ねる回答構築に向け努力していきたいと考えている。

一時金の算式や配分方法については、これまで通りを踏襲する考えでいる。

【日検協会】

今賞与の回答構築について、回答構築の判断材料となる2025年度下期の事業収益は、中古自動車を取り扱ひ量が堅調に推移したことに加え、料金改定等の収益対策による増収効果もあつたが、倉庫や鉄鋼関係の取り扱い減により複数の支部が事業収益で計画比未達となっている。

このような状況下、中東情勢をはじめとした世界経済の動向による収益面への影響は今後も注視していく必要があるが、引き続き収益対策をはじめとする営業活動を協会一丸となって展開し、収益を確保する考えでいる。

一方、生活面においては原油やナフサ価格の高騰を背景に食料品をはじめ日用品の値上げが続いていることから、従業員の生活負担を少しでも緩和できるよう、今賞与について現在、鋭意検討を進めているところである。なお、回答構築にあたっては、これまで通り直近半期を基本にした従来の考え方に変わりはなく、算式についてもこれまでと同様の考え方を基本に検討を進めている。

【組合主張】

組合は、両協会から貨物の取り扱い状況や収益状況、今後の見通しや今夏季一時金回答算式の考え方などを聞き、次の通り主張したうえで次回交渉までに組合要求に沿った形での回答を構築するよう求めました。

回答構築に向けた考え方として、両協会ともにこれまで通りとの考えであるが、一時金回答における地域間格差は各地域でのハレーションを起こしている実態がある。次回交渉までにまだ時間があるなかで、もう一度回答構築に向けた考え方の再考を求めた。

両協会共にこれまでの料金収受の取り組みで一定の成果を出してきているが、その成果を職員に還元するべきである。

中東情勢の悪化によって我々の生活は厳しさを増している中で、組合員を離職させない取り組みとして組合要求に沿った乗率重視の回答を求めた。同時に組合として乗率にこだわった要求をしていることから、しかるべき時期に提示される有額回答については乗率部分の小数点以下の数字にもこだわっていることを付け加

えて主張する。

26春闘では両協会ともに適正料金収受の取り組みを強化したことによって一定額の賃上げ回答が提示されたと感じている。しかしながら、その背景には現場で働く組合員の日々の努力によって業績等が支えられているとの認識でいる。

26春闘での賃上げはあったものの両協会でも働く組合員の生活実態は依然として厳しい状況に置かれている。そのようななかで、組合員は懸命に業務を遂行し両協会の収益を支えている。その努力に報いるためにも、組合員が納得できるだけの回答を強く求める。また、今回の回答如何によっては、今後の職場の士気や人材の流出などの影響を与えることのないよう、充分検討を重ねたうえでの最大限努力した回答の提示を求めたい。



次回交渉:6月25日(木)14:00~
第4回 検数労連26夏季一時金交渉
次回交渉は、労組指定の『有額回答指定日』!
各地域闘争委員会ならびに全国の組合員は次回交渉に注目せよ!

